

行事の意義を考える 季節の行事「ひな祭り」

第104号 2019年2月25日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社ガガヤ 奥山卓矢



「ひな祭り」の室礼

「ひな祭り」インタビュー

3月3日は「桃の節供」「ひな祭り」。

五節供のひとつ「上巳（じょうし）の節供」と言われるそうですが、
今回はカグヤクルーの宮前さん、佐藤さんにそれぞれの「ひな祭り」の
思い出について語って頂きました。

—今回は「ひな祭り」についてお聞きしていきたいと思います。
お二人は「ひな祭り」には、どんな思い出がありますか？

宮前 ちらし寿司や菱餅を食べたり、ひな人形を飾ったりしてました。実家はマンションでしたが、ひな人形は7段飾りで、今思えば大事にされていたんだなと思います。同じマンションに住む同級生の友達は男の子が多かったので、珍しがって家にひな人形を見に来ていた記憶があります。

佐藤 私は幼稚園で、飲み終わったヤクルトに折り紙を貼ったお内裏様とお雛様を作るんですけど、母がビールケースを積んで壇を作って、それに赤い布を敷いて、そのひな壇にヤクルトのお内裏様とお雛様を飾ってました。家が田舎で、農村地区だったということもあったと思いますが、当時ひな人形は高価で買えなくて、母もしてもらえていなかったせいもありますけど、娘にはしてあげたい気持ちが強かったんだと思います。

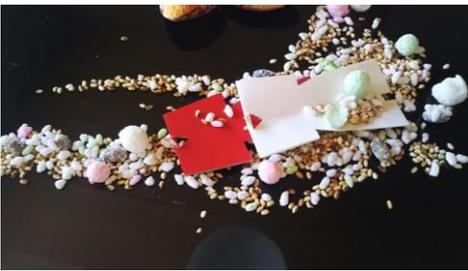
—素敵なお母さまですね。

佐藤 なので、私と姉が作ったヤクルトのお内裏様とお雛様を一番上に4つ飾り、3人官女は日本人形、5人囃子はぬいぐるみ、並べる数だけ合わせ、家の近くで咲いている菜の花を飾って、「ほら、ひな人形だ」と母は笑いながら嬉しそうに言っていました。でも、友達には恥ずかしくて見せられないので、家の一番奥の部屋に飾っていて…大人になってこの話をすると



「ひな祭り」の室礼

雛祭りとは本来、人形（ひとがた）に体の穢れを移して海や川に流す「流し雛」だったということで、「流し雛」。流し雛とは、厄災を人形に託し、穢れを祓い流し去る、雛祭りの原型。



お米を炒っているのは、関東と関西では意味が異なり、諸説あるようですが、江戸時代の頃にお釜に残ったご飯粒を天日で乾燥させて保存しておき後日干した飯を焙って作ったり、お米を直火で炒って爆米というお菓子を作って食べるのが流行していたり、菱餅を砕いて炒ったのが起源だったりするようです。



女性の貞操の象徴ともされるちりめん布でくるんだ「飾り蛤」や、三が重なることにより、三月三日を表し、ますます栄えるの願いをこめた「さざえ（三三栄）」を盛りました。

母は大爆笑してました。あられも手作りで、乾燥した餅を揚げていました。今のように色々な大きさのひな人形などなく、家にあるもので全て手づくりがうちのひな祭りでした。

宮前 買ってきた何かではない手作り感は、お母様の想いがないと出来ないと思います。笑って飾ってくれるのもいいですね！

佐藤 今は100円ショップであられも売っているけど、昔は1袋300～400円位していて、当時では相当高価だったんです。だから、あられも手作りで作ってくれていました。

宮前 うちには姪っ子がいて3、4年前に久しぶりに実家のひな人形を出しました。女の子が生まれないと活躍の場がないけど、やっぱり人形も飾られると嬉しいだろうなと思います。

一男兄弟だったので、ひな祭りは華やかなイメージがあります。子どもの成長を願いお祝いするのは、今も昔も変わらないんですね！

佐藤 昔、田舎ではひな人形を持っているのは珍しく、ひな人形を買ったら、翌日には町中の人知っている感じで、「あそこの家、立派なひな人形買ったみたい」と噂になり見に来るし、買ったことを自慢するくらいすごいことでした。母は娘と一緒にひな人形を飾るのに憧れていたんだと思うけど、準備がはじまると家じゅうの人形を集めるのに駆り出されて、今思うと面白かった。

宮前 「節分」の時にも話したことですが、室礼教室の先生も、先生が教えた通りではなくて、自分のおばあちゃんやお母さんが伝えてくれた家庭内文化、その家庭で育まれたものを大事に優先して欲しいとも言っていました。お母さんがこう言ってくれたとか、その時しか出来ないことが思い出になるから行事は大事なのだと感じます。子どもはあっという間に大きくなり、一緒にいられる時間は短いから、こういう行事は、家族との豊かな時間を作ってくれる意味でも大事にしたいものですね。今は働くお母さんも増えたりして、家庭ではなかなか難しい時代だからこそ、園で行事をやることの意義も高まっているように思います。今と昔とでは状況が違いますが、立派なひな人形もいいけれど、園で子どもが作ったひな人形を大事に飾ったりするのもいいですよ。大人になっても子どもの頃の記憶が残っているとい



ひなあられの川の上に、紅白の紙びなをのせ、川の流れの中に蛤を、そして川辺には美しい桃の花が咲いている様子をしつらえました。

桃の花や木には、邪気を祓い、百鬼を制する高貴な花とされ、暗い冬を破って、明るい花を咲かせることから、嫁ぐ娘の華やいだ美しさに例えられていたようです。

3月3日が「桃の節句」と呼ばれるのにも、単に、桃の開花時期に重なるというだけでなく、そのような背景があるからなのでしょう。

うのも行事の意義なのだと思います。これを機会に、改めて母親側にもひな祭りの思い出をきいてみたいと思います！

一行事の醍醐味を改めて感じました。お話ありがとうございました。

インタビューを終えて思うこと

子どもの頃の3月3日を思い返してみると、ちらし寿司とひなあられがあったことを思い出します。

私自身は兄と二人兄弟で、女姉妹はいませんでした。母が自分自身を祝っていたのか、それとも兄弟二人にも「ひな祭り」を味合わせたかったのか分かりませんが、自分もこう記憶しているのを思うと、大人になっても子どもの頃の行事の思いでは残っていることを感じます。

お二人から話を伺う中で、嬉しそうに話す姿も印象的で、それぞれのひな祭りがあったことを感じさせて頂きました。

この時期、園に何うとひな人形が飾ってあり、それを見るとやはり華やかさを感じます。そして、子どもたちが作ったお内裏様もお雛様も、先生方が工夫を凝らし飾っているのを見ると、そこに子どもたちの成長を願う想いを感じます。

楽しいから、嬉しいからこれまでずっと行事が続いてきたのではないかと考えると、私自身もこの「行事の意義を考える」メルマガの中で、このことを再発見させてもらっています。

社内でも毎年、宮前さんが「ひな祭り」の室礼をしてくださっています。

元々のひな祭りの意味も噛み締めながら、子どもたちの健やかな成長を先生方と同じように願っていきたいと思います。

●過去のバックナンバー

第101号

職域別見守る保育セミナー①

第102号

職域別見守る保育セミナー②

第103号

職域別見守る保育セミナー③

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>

ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、
QRコードからお願いします。

 **CAGUYA**

〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2号館 10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢